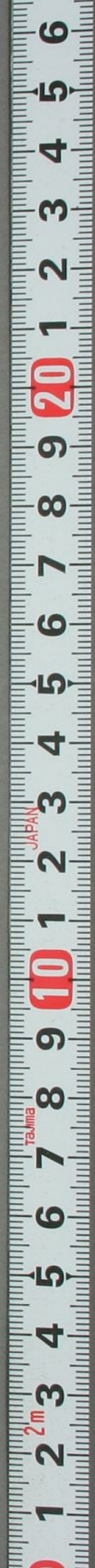




多岐の迹



~ 4  
2106  
2"



利門  
2.146  
巻 24

多々 迹巻中六

雜下

星

山と山入道

月と星とある程因に色をくみてみれば星とみえて数ある

雲

同

底葉せり冴くときくさる山と程はるかにひらひらの  
空乃ち心あらむをうりみれば初て安んず早き事あり

風

同

初なるうらまひ葉にわらふとせよ二度つらふ風のちり

雷

同

周り夜ふそとのちりもゆらりてきふ道ちあふ津島

山居

同

居りて杉居小庵て夕陽の松と雲とのををり多



山家烟

同

素よりくさる山陰よりもまなつたけの位家のいし

山家風

同

入ぬ山のまらぬ扇と吹くうらたの松ふくこのてきく

暮山雲風

同

月一松月一山之き部きいりある風うきふくせん

山家松風

小出播磨守英長

山伯小回より人もあつてもうらたのまの風

山家と

法名宗川

いとふきまのうらたもあつてもの味う山は黒

方らたき息を度

くらぬまのあふ海への房ともうらたの境や知ん

あつつかまればあつても山陰の初やいうまとのうれも

浪とまて烟をらん山は道うらたの竹う一ひら

特登養卜方伝

梨分茂隆

若うにはあつてもうらた泳らん夜山は初あつた

増村活徳の道

山家あれくすじもわくハとを流うらたの松は

山家と

小若宗悦

つらなと葉のうらたに訓きてもあつた山とあ

海と

鈴木玄九郎主視

傳いせん海やいつたり来も初もくまのあつた

海眺と

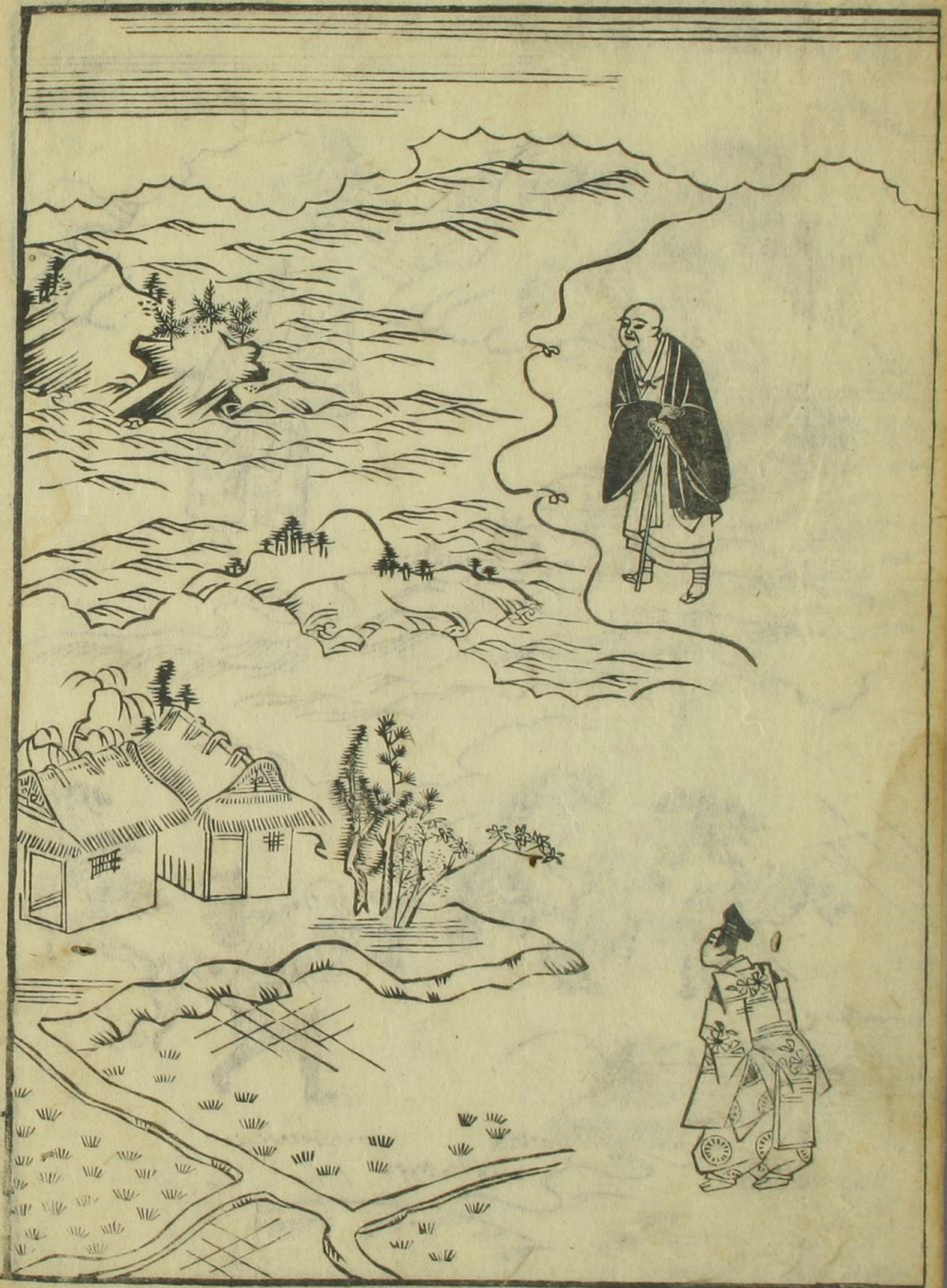
山名本山入道

思をあつても初もくまのあつた

海上と

同





山と山入道

ふす場の下宿の宿をめぐりてあひてあそびて遊むこと

田家

同

賤乃男のうらむ種のかつらひをてりてあそびて遊むこと

是中家好

房をりてすけり田田あせつてあそびて遊むこと

方と清き清き清

ふろくのかつらひをすけり小田の結ひ持てりてあそびて遊むこと

田家

山室は法持る慶

字に持てり田の面ふりてあそびて遊むこと

田家若翁といふこと

家法

浅秋の田つきの房をりてあそびて遊むこと

古

山ふも山入道

あつちのつたのうらたのつちとハ形をいふは秋のうら

清田七右衛門利重

すあゆみのつたのうらたのつちとハ形をいふは秋のうら

日永可敬快意

夜をぬかすかればおと陰少くさ竹よりかくの里に一し

ちとつたのうらた

まゝとつたのうらたのつちとハ形をいふは秋のうら

磯田助六郎正隆

志としていさゝかやとらん雲をささぐり竹のそ

柳陰をさす奇

うらたのつちとハ形をいふは秋のうら

田中出羽守定勝

春秋のつちとハ形をいふは秋のうら

浪洋浪雨

肥田原内り

風とあつちのつちとハ形をいふは秋のうら

咲

林英作守重秀

とひくあ打ぬの時ハ定まらずて初まハ回へらつちとハ

山ふも山入道

是り又れハあつちのつちとハ形をいふは秋のうら

晴

新居頼母敏勝

あつちのつちとハ形をいふは秋のうら

開路籍

田中出羽守定勝

園のうらのつちとハ形をいふは秋のうら

古寺塔

不取丹後守重母

はるまゝあつちのつちとハ形をいふは秋のうら

腰初玄昌娘あん  
よそあつらひ  
みづのく白川と領とさきあいのせりし時

松平大和守壘經

身より物もろくこと白川の園りさして幾代守らん  
神を月のひかり智るまきくろし時記山院乃  
とまをせぬいし木乃下よりふりてふ所  
西村法一くじうの初とさつるうあつ清  
とありい出く 懐きさ秩守

木の下れ初ハ紅糸小埋して初智の言根ハ初白海  
山名と山へ道ハ府武家の初言とせぬん  
とせし村初とさつと半はさるいりしその  
あはに半付りる

京極の初言門

あとの糸ハ終りふりへまじりし中ハ初言とさつる  
山堂法橋は舞雛波の片糸ハ終りて  
極とさつと周く清言とさつる

菅沼氏初言忠

雛波うくさつと道ハとさつに初言の糸ハと道  
太田道灌く初言目さりさく

友堂初言守言

雲明て今宵月とあいの初言とさつる  
梨平初言

ゆふ方小石中の寺ハさつとあつと日言初言  
とさつ人さつる

つと日言初言宿言社りあつとさつ

駿河國富士川の新田加修とらふ所ふあり平を  
ててまき日海うてて後々

渡部宗仁

新波しやまの松葉の香消てふふ春の風とらん  
萬候初雪の流るるを

井上しんせ

春報

新防の頼尚

花多風も多しあつていけいけかきとていふ

去杖野花 二枚十信守急

とまれ摘こころりて田野の春や秋のそふあはる

報音 田村主殿宗辰

取あうりやきかゝる物廣の心あはるるいふ

山名ふい入道

竹ちとまらやあつてまのゆふきく六朔をふくすて

七十年ふらうまの年をすてそののれ

舞とがうーまのちふ 漢人不死

消くぬあのみきあつて結法未あつて同ともし

去のりぬの地きく月とらん

月とらん昔とれぬのりぬのめあいのなりうと

ある人のいふ志のりぬの地は志のふくまかつてさる地あるゆ  
去のちありそれと志のりすしつたんと文字とみ  
すのまも母とてさうとさうとハゆ文字あり不死の地  
あはらぬあふありと

富士と後々 山名ふい入道

少の福のふハ程を時着てあつてあはれあつてうと  
久さうりふれいりのそとまこみあはるる富士の白雪



えうとてまきゆつろりむすむすたもま夜うらまはむ

法圓行脚けいこくしつとさしつと野うらま

梨不夜睡

武蔵野をわらぬ庭ふらまきてうらむ根と葉ふらま

まねまき同

うらまてとらうらまらふまはらうらまのまのまのま

玉川まき今たしむる

杖のまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

鮫うね同

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

相生橋同

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

神子のまき二かまの木乃こまき橋町とくまきと

うらまらぬ人もまきまき神子のまきまきまきまき

濱下の地

かみま府の天神のまきまきまきまきまきまき

比小雌雄のまきまきまきまきまきまきまき

まきまき同

吾妻うね

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまき

たのまきまきまきまきまきまきまきまきまき

あや瀬川まき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき



望えの山のやうしに橋のちるごとく  
人丸りちるまをいふまはらふのまうしとて後ま  
まをの山言えみつわあしおまをかりひか  
文木をいふあしも咲たよぬのあはてハ  
言せ山のやうし奥院あとかうま  
て仲性院お寄し曉えの夢小国ま  
言せ山のあうしとまのあもりま  
言せうしと下向ふ佐古ま  
いのうしとよまはらうしと  
佐古の松と 古屋ままの松  
あうしとまはらうしと  
言せの松 言せの松  
言せの松まはらうしと  
言せの松まはらうしと



源義家の陸奥久古曾の岡乃花の寺は後小  
 寺へてまゝの父八圓小村とゆふらふにそむらふの累  
 梨小茂賤くちま菴(尋常ありて流るるる  
 有る程宗寺縁河久人  
 和子の浦友時千多からせしうまゆふり言後流り

恋

初恋

山名お山入道

落しひらりやま上流川をへいりあけ淵とあらん  
 方ち流るる情まな  
 つくともまきまうそあめり今日何ゆふり流るる

同意

山名 山入道

秋意 山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

待意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

不達意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

初意

同

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

意

山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

山名 山入道の 山名 山入道の 山名 山入道の

根亥

金垣安之娘

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
日お亥 同

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
山名と山入道

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
意欲 同

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
意欲 同

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
意欲 同

ふふよ新根の月の影ありてとりとぬ神の杖の根を  
意欲 同

亭山亥

山名と山入道

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
亭山亥 同

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
亭山亥 同

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
田村主殿宗辰

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
亭山亥

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
山名と山入道

杜夜ふらふの鹿もあはれ  
題あり

りいんしんしん人かじ命ふかあて行あうらわ  
あ

とくそ又今を限りぬえり系ふ程あふさる色ゆゆ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

慶頃

寧春日祝

山々山入道

い子慶喜の入目とくくても因は代ふあうらえ

寧去月祝

同

竹乃系ふかともぬ月日移りきて代ふあうらえ

松笑遊年

あうせぬ色ともありは代は程うらうらあせねのとて

竹笑遊年

梅袖の年のあうらうは言の書とて人の代ふあうらえ

花笑遊年

うらうらよきのくめやこの花子年もあるあうらえ

世治興文事

咲梅入の心を程うて治るあうらえあうらえ

水石磨卒

流ゆく水をあらうん細石の尻尾乃淵と今ハミヤ

梅吉去道

小代も入ん宿小春さのとりやまを巻せてはる梅枝

空道旅云

海山と越く入つことごとくふもろあはれ代ハミヤ

月多秋友

ゆくの秋も程をさそめくすじ月と秋ふらら中ハ

松焚千秋

松小あゝあゝとてけしおといわくふ斗ある代風

去方赤色

君代もあや年ハ松のみよりくたふさふまの風そのとき

空際久

いぬ丹後守を

吹風もはる代ハ花あはらるふ成るゆきをくさくさ

水樹多佳歌

水代乃新しき松や池を濁らぬ人の心あはれ

去書祝

春来やハ老木の松乃を緑わすてよハ小代ハ程あは

瘡

義代も去るさふあはしつものくじはは苦白瘡乃くさ

渡さぬ玄八十は屏風の去る

大伴信行忠基

あえての八十年ハ坂の末をさしるふ小代の子をさる

秋登

秋のふし程乃程もさきててあをうらうらめ詠あはし

紅葉

三浦保房氏重

子女の秋も色ハうりしんふあさき小ね葉枝とまて

千鳥

古田友乃信宗泰

磯崎や洲崎ふつてら松風の勢も千とせね友らとら

廣賀

伊藤玄番友嵩

まう友とすじ落葉の勢代も此の境さうてとてん

春日山あつた友のたうらとてん

田村玄宗永

道りく下り下まきく白あしとてん

*Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.*

神祇

約しの富士さく 梨ふ茂睦

吹くく女のみまにけまきくハ身の時をらぬうた山は

行脚せし時けの國大坂乃生あけ屋しうさく

いのり日きつむらとてんけけ神とてあひりある

社乃祝

田中大隅守定格

多て今さうあけ代と瑞龍のうらうとてん

社乃雪

伊都屋乃永津

笑つくと神とてんんよ山紅葉のほらちる白ゆふ

神祇

田村玄宗永

新やう月もふ似と神路山めくこのあけむらう

肥田源のちん

あけの天照神のたてを菅原かうさうもあ



城守作守親昌

神をあれとあふ人のひよりほこりあつらひ神の心を  
方ちたき橋まき候

馬と目あけしとせめてる程の心を神まをいれし

小野角を文陳貞

わくしつてらるるうらもすれん山雲のあつらひ

古屋本を文陳貞

柳葉のうらうらふもせうけて君とまの神はし

松下卯仕娘けん

母と馬と新も中宗小佐右の松のついでの日やあつらひ

山名を山入道

畠戸明神のあをぬきものあつらひ月か今もあつらひ

伊勢の神と 同

神路山つららのまはれあつらひのまをせむし指あつらひ

宮忠法

例ハ瀬またくうらうとすう川あつらひ柳葉のあつらひ

春日 同

三笠山あつらひすうのあつらひつらりつらり宿る秋の月

柳陰寺をうま

石清水をすめを神のつらりてしき流はつらりて

坂原娘 森山女

まう代ちしる流の石清水をつらりてまらんあつらひ

古屋本を文陳貞

八幡山八百義代あつらひつらりて八幡のあつらひ

任右 梨平茂隆

安海のつらりてあつらひつらりてあつらひ

出津橋

山名出山入道

お津橋みうくんかありきしむきやま系打あふふ  
亭神祇祝 清水宗川  
八雲の山出津神のまろはれをくまふ道そのこ

此書ありしうらふらうの山らくく月小  
雲のまろくろくをけしりく  
見しものん事うあつたの消くてぬ回  
いそくはくやとくじねくろあまうさう  
ら後あふふ迹れかえふ物とくんとあふ  
あけ物

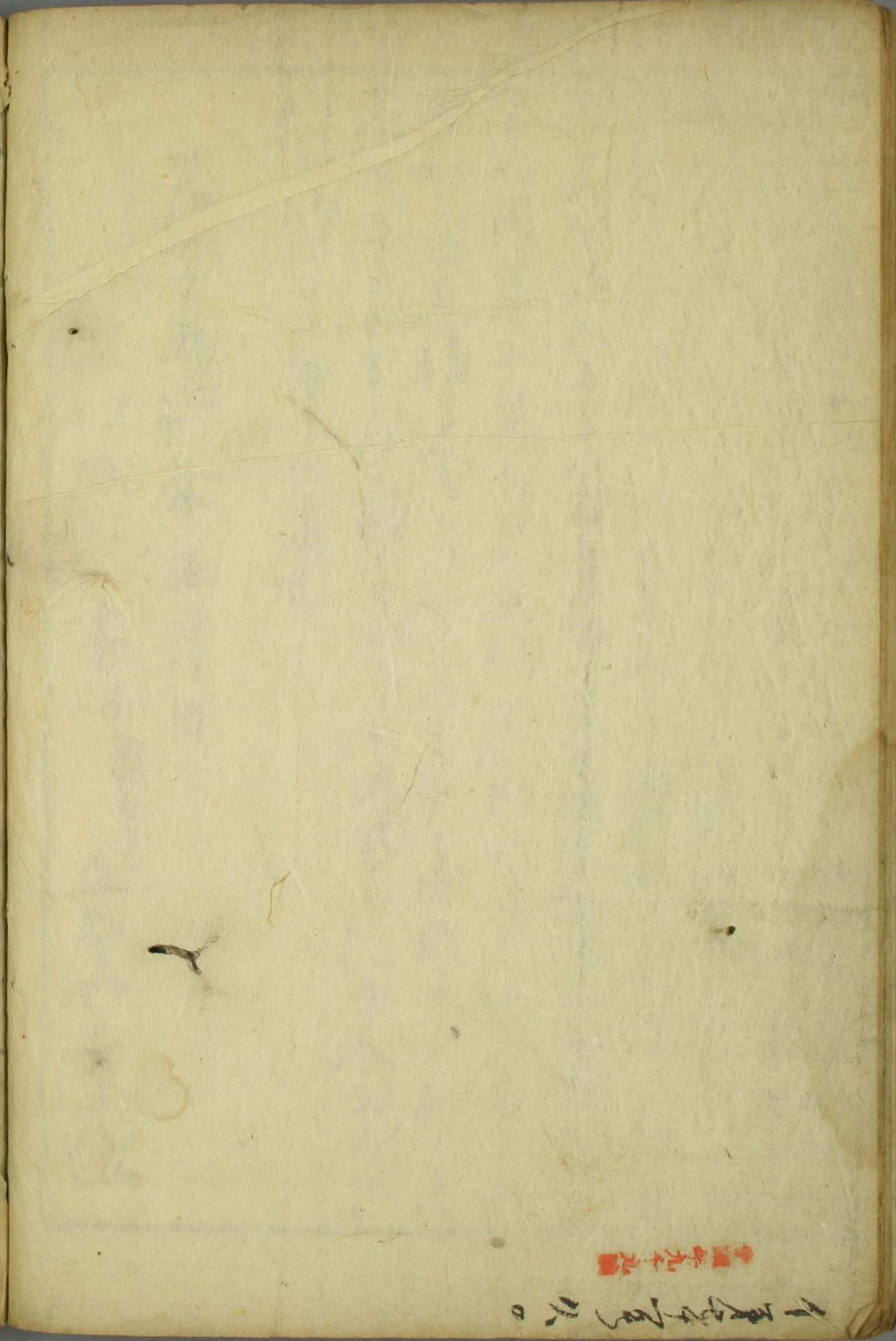
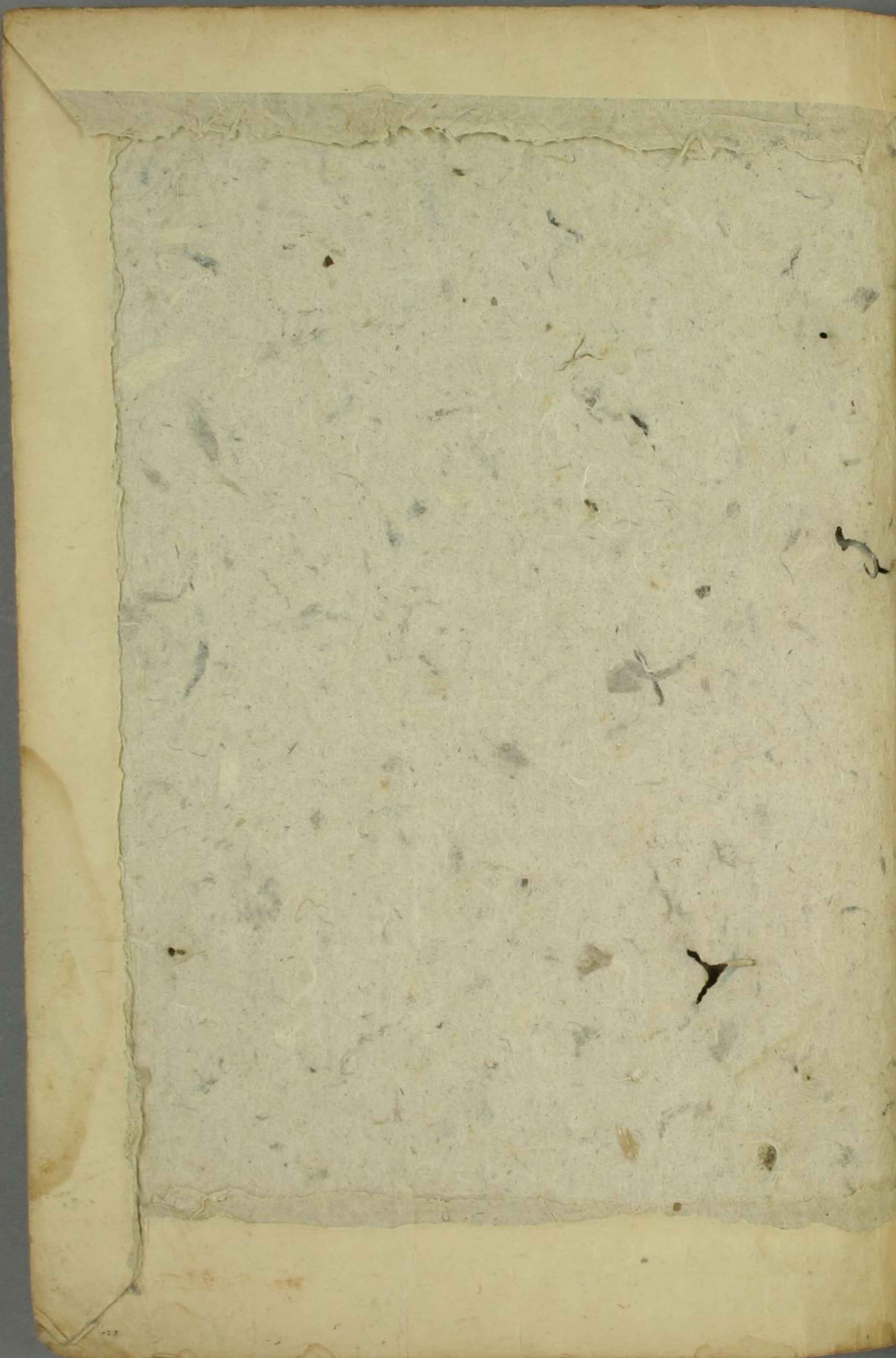
露寒初秋本居家茂睦

藤原恭光入道

此等之跡録中のあらがはしむる七百あるにわたり  
板のわらうに字をあらはし家々のとより一ならずあり  
幸入りのてあらはさる幸にあらずゆにあらはせり  
しゆにちがひありけりとて道のあらはせり  
あらんを幸入るにわらふてそのらくするは  
この撰集のあらはると末のあらはると  
あれは幸入のあらはるといふことありあり  
あらはるといふとてそのあらはるに幸入ると  
八百のあらはる者也

元禄十五年正月日

武口城北 書林 藥堂 卒於也古之傳



小東山堂  
書局九本

